

平成 28 年度第 1 回開成町総合教育会議 議事録

日時：平成 28 年 9 月 30 日（金） 13 時 30 分～15 時 00 分

場所：開成町民センター 2 階 中会議室 A

出席者：（町）府川町長

（教育委員会）鳥海教育長、村岡委員、府川委員、露木委員、上野委員

（説明員）中戸川子ども・子育て支援室長、橋本教育総務課長

（事務局）岩本企画政策課長、渡辺主任主事

町長あいさつ

最近、小学生の自転車の乗り方大会（「交通安全こども自転車神奈川県大会」）優勝、中学生の陸上・水泳・野球の関東大会出場等、子供たちの活躍ぶりが目立っている。教育委員はじめ学校関係者の指導の賜物であり、改めて感謝申し上げる。

今年度は、開成駅前子育て支援センター「あじさいっこ」の開設、酒田みなみ保育園の開園等、子育て支援環境の充実に注力している。子育て・教育施策に更に力を入れ、子供たちの賑やかな声が響き渡る町にしていきたい。

また、町名の由来でもある「開物成務の町づくり」を進める観点から、行政と地域が力を合わせて、子供たちの「生きる力」を育てていきたい。その取組のひとつとして、今年度より新たに「土曜学校あじさい塾」をスタートさせた。これまでに見えてきた反省や課題も踏まえて、更に意義ある取組にしていきたい。本日は忌憚のない意見交換の場になればと考えている。

教育長あいさつ

町長からのお話があったとおり、子供たちの活躍について町民からも声を寄せて頂いており、大変喜ばしいことだと感じている。

一方で、知識を学ばせる、という教育の本質についても重視している。先日、全国学力状況調査の結果が発表された。結果に一喜一憂するわけではないが、教科の知識理解等、全国や県平均より若干下回る点が認められた。学校全体の教育水準を一定程度引き上げていくことは並大抵のことではないが、引き続き注力していきたい。

また、インクルーシブ教育の全面導入について間もなく開かれる就学指導委員会の中で議論する予定である。現在「ほうあんふじ」に通っていて、開成の小学校に入りたいという児童がいる。みなみ小学校で受け入れる予定だが、毎日の生活が車いすできるのか等、具体的な教育の中身について、日々真摯に検討を進めているところ。

本日は、そんな町の教育について、教育大綱の観点からどのような成果や課題があるかと考えているか、率直に町長からお話を頂ければと考えている。

議題 1 協議事項 ア 開成町教育大綱の進捗状況について

教育総務課長：具体的教育施策は従前より開成町教育振興基本計画に基づき実施している。教育大綱は今年 2 月に制定されていることから、本日の会議では、教育大綱の 5 つの柱に沿いながら、主に平成 28 年度前半の振り返りをしたい。なお、今後も、総合教育大綱の振り返りについては、教育振興基本計画の進捗状況の確認とあわせた形で行っていきたい。

1 生涯を通じての学習や体力づくりを通して、自らを高め、自立を図ります。

教育総務課長より概要説明

- ・「ふれあい教育など研究推進事業」を活用して、園・学校が協働した中で研究を進めたり、教職員の交流を通し、子供との繋がりを継続して持てるようにしたりしている。「互いに伝え合い学びあう」をテーマとした授業改善を研究課題とし、児童生徒の思考力・判断力が身に付くような授業研究を実施している。
- ・弥一芋や米等、開成町産食品を活用した給食の提供を通じた食育を実施している。
- ・幼小中高連携事業として、友人同士、先生同士の人間関係を築くことを主眼に、夏休みに相互の学校に出向いていてクラブ活動を実施したり、卒業式の花の飾りつけをしたりといった取組みを進めている。
- ・幼稚園では、親子が参加する「のびのび子育てルーム」を週 1 回、子供たちだけが参加する「すくすくルーム」を週 2 回、それぞれ実施している。2 年後に予定されている三歳児教育の実施にうまく結び付けていきたい。
- ・小学校を持つ子供たちに対し、生活支援員を配置する等きめ細やかな対応を行っている。いわゆるグレーゾーンの子供たちに対しても、各学校において臨機応変に対応している。
- ・外国籍児童への対応として、今年度当初はスペイン語対応児童 1 名のみであったが、6 月にネパールから 2 名の転入があった。ネパール語以外にも英語が使用可能ということで、現状の体制の中で対応している。この他、中国から、日本語・英語を親子とも話せない児童の転入があり、新たに中国語通訳の非常勤を配置し対応している。
- ・この他、町全体の教育力を高める観点から、日々児童生徒と向き合う先生方の健康管理に取り組んでいる。

町長：学校教育の全部を見ることができる人はおらず、保護者も自分の子どもに関係する部分しか見ることができない。そういう意味で、教育委員会はこうした教育への取組みについてもっと PR したほうがいいのか。地域の皆さんにも教育に関わって頂くうえでも、情報共有は極めて重要。学校教育への理解を得ることは地域にとっても子供たちにとってもプラスになるのではないかな。

府川委員：一口に町民に伝えるといっても、各々の立場・考え方は多様であり、なかなか意図したものが伝わらない怖さがあると感じる。いわゆる「良いこと」を伝えるのみならず、微妙なニュアンスを含む、例えばプール建設等の問題等は、伝え方や伝える対象をどうするか判断が難しい。

町長：確かに小学校二つあれば比較されてしまうこともある。もちろん町としても、PR可能な情報については、町の広報に掲載することも可能である。

教育長：各学校の校長が出している「校長だより」により、町長には各学校の動きは伝わっているものと捉えているが、それを町民に出す場合、その対象をどうするかは非常に難しい。以前も指導主事が中心となり「教育委員会だより」を発行していたが、内容や配布対象の問題もあり、現在は発行していない。

町長：町の広報でも、学校関係に1ページ割り当てていたと思うが。

渡辺主任主事：「広報かいせい」の1ページを割り当てている。なお、「広報かいせい」はHPにもアップロードしており、パソコンやスマートフォンから閲覧可能である。

教育長：「校長便り」についても、HPに掲載している。情報機器を持っている人は、自由に閲覧できる状況は整っている。

相馬委員：そのことが今一つ浸透していない、ということだと思う。例えば、新しい庁舎で学校専用の掲示板を設けたらどうか。少なくとも全戸回覧よりはいいのではないか。

町長：そのようなものがあってもよいのかもしれない。

村岡委員：コミュニティスクールなど、地域に開かれた学校づくりを目指している町として、学校が何を考え、何をやっているかが地域にうまく伝わっていないというのはおかしいと思う。私が校長の時は全戸回覧をやらしてもらっていた。以前、月曜日が授業参観の振替休日ということを町民が知らず、月曜に町内を歩いていた生徒を見つけて学校に連れていったところ休みだった、ということがあった。学校の情報が地域の人に伝わらないことの一例だが、教育大綱でも地域の人を巻き込んでと書いている以上、何かしら努力している姿勢を地域の人に見せることに意義があると思う。

教育長：自治会長など、特定の人に対しては情報提供している。特に、コミュニティスクールに指定してから、学校運営協議会委員会の各委員に対しては必ず情報提供している。

なお、中学校は全町で1校なので、(全戸回覧を) やってもいいのかなと思っている。

2 町民一人ひとりがそれぞれの立場で連携しながら、子どもたちを守り育てます。

教育総務課長より概要説明

- ・土曜学校あじさい塾を3回実施した。実施後の受講者アンケートでも、もっと学びたいという前向きな意見が多数を占めた。一方、企業への講師派遣依頼をした際、土曜日が休業のため、学校(=会社外)での講師派遣については難色を示す企業も多い。更に、今後はお知らせ版等で講師の一般募集もしていきたい。
- ・今年度から開成幼稚園をコミュニティスクールに指定した。制度の周知・啓発を目的に8月には教育講演会を開催した。今後も、関わりが少ない先生方及び町民にも周知していきたい。

町長：私も3回出席した。やる気のある子が受講しているということがあるかも知れないが、非常に活気があった。土曜に営業している地元の企業もまだまだあるはず。私も直接お願いに行くことも可能なので、大きな会社に限らず企業の開拓を進めてほしい。講師となる人材を地域の中で見つけることは難しいが、今後の街づくりを担う人材の発掘という意味でも大切だと思う。

教育長：これまで実施してきた土曜学校は、町長のイメージしたものとは近いのか。

町長：私が講師を務めた幕別町訪問に係る講座は別として、初回講座については、イメージに近いものになっている。参加人数は少ないかもしれないが、最初から人数を気にする必要はなく、やっていく中で増えていけばいいと思う。講師の募集にしても、動いてみないとわからない。更に知恵を絞ってもらいたい。

教育長：1回目は1次募集で定員以上の応募があり、教材(道具)を揃えるのも一苦労だったが、何とか実施することができた。初回としては、良い講座になったと思っている。

町長：単発で終了する講座だけでなく、複数回にわたる講座もあってよい。また、大勢の人の前で発表する機会を設けることも大事。通常の学校教育の中でも、発表の機会は設けてもらっているが、更に増やしていきたい。また、類似の取り組みをしている自治体等があれば、視察に行くというのもいいと思う。

教育長：松田町の取り組みは考え方が近い。中井町は中学3年生を対象に、塾に行けない生徒に対し英語と数学等の補修を実施しており、開成町の取組とは性質が異なる。

3 規範意識や公共の意識を高め、他人を思いやる豊かな心を育てます。

教育総務課長より概要説明

- ・子育て以外にも「親育て」も必要という観点から、家庭教育学級を開催し、保護者に対して、家庭教育や基本的な生活習慣についての意識付けを行った。国が進める子育て支援は就労支援とイコールだが、教育委員会では、やはり幼少期は親と過ごすのが一番であり、母親が働かなくてもいい環境をつくるのが本当の子育て支援ではないかという議論をよくしている。
- ・毎月1日と15日は挨拶運動を実施しており、地域住民に子どもたちの登下校の見回りをして頂いている。児童生徒の安全確保だけではなく、地域の交流にも資するものと考えている。
- ・いわゆるいじめ問題について、重大なものはないが、幾つかの事案を把握している。現場が一丸となり、心のケアなどの相談体制を整えるなど、様々な角度から支援している。

町長：子供が小さいうちは親が働かず育児に専念する、ということがある面では理想かもしれないが、実際問題として、共働き世帯が増加していることも事実。共働きをしても安心して子供を育てられる環境を整えるという意味で、保育園の新設に着手したほか、地域全体で子供を見守る仕組みづくりに取り組んでいる。

地域活動については、いわゆる「無関心層」へのアプローチが常に問題になる。大人になってから考え方を变えることは難しいが、幼少期から継続して地域と触れ合っていくことで、自然に地域と協働できる人を育てていければと考えている。

いじめの問題にしても、理想としては0件だが、実際はそうはいかない。教師の目が届く範囲にも限界があり、地域の人が地域の中で自然に子供を見守る環境があれば、ずいぶん違ってくるのではないかと。

教育長：教育振興基本計画の進行管理においては、先ほど課長が触れたいじめの問題にしても、現場の状況や当事者児童の家庭環境、生い立ち、友人関係などかなり細かいレベルまで情報共有しながら議論し、対応・指導している。総合教育会議においては、個別の事案まで踏み込んだ議論はできないが、全体的な方向性や現場の空気感を伝えていきたいと考えている。いじめがある、と聞くと、対応はどうしているのかとすぐ問われてしまうが、現場では毎日地道な努力を続けていることを知っていただきたい。

なお、以前は、児童が友人から水路に落とされた現場を住民が目撃し、学校に報告があった、という例もあった。最近はそのような報告は聞いておらず、状況は改善しているのではと考えている。むしろ、最近では、大人の目に見えにくい、例えば携帯のメール等からくるいじめの話が現場ではよく問題になっている。引き続き、教育委員会でも対応を続けていく。

4 自然や環境、歴史や文化、芸術や文化を尊重し、私たちのふるさとである開成を大切にします

教育総務課長より概要説明

・瀬戸屋敷、酒匂川等の地域資源を題材とした課外授業の他、真鶴町児童、北海道幕別町等の他自治体との交流事業を進めている。

町長：他町との交流については、少しずつでも交流の輪が広がって、お互いの町の良さ、自分の町の良さに気づきにつながればと思っている。

先日開成小学校の運動会を見学したが、「サイサイ節」と「阿波おどり」を地域の人が押している。南小学校では阿波踊りを運動会でやっておらず、連長が教えに行きたいと言っていた。町の大きなイベントなので、子供の頃から親しんでいくと次につながるのではないかな。

村岡委員：私も運動会を拝見し、いいプログラムだと感じた。少し残念だったのは、保護者も一緒に踊りましょうというアナウンスには耳を貸さず、終始我が子の姿を録画していた保護者がいたこと。しかも、うちの子供がうまく映らないと文句を言っていた。先ほどの家庭教育の話に関わるが、地域全体で踊りを共有できればいいなと感じた。

教育長：実施に当たり、連長さんから小学校の先生へ、阿波踊りの研修の時間を取ってもらった。流儀や作法は様々だが、細かいことは抜きにしてとにかく手足を動かす、ということに力点を置いた指導で、大変ためになったと聞いている。

村岡委員：上手い・下手以上に、全員が一つになって踊りを踊ることが重要だと思う。

教育長：学校としては地域の方々に協力して頂けて嬉しい反面、多くの連の方々が来られることにより、他の授業日数に影響が出てしまいかねないという悩みもある。

村岡委員：各連で毎年順番に持ち回る形式が一番良いのではないかな。

教育長：ひとたび参加を呼びかけると地域の人たちが大勢集まってくるというのは、開成町のいいところだと思う。プログラムを組むのに四苦八苦する面もあるが、それでも、最近自治会の連に地元の小中学生が参加している姿を見ると、いい傾向だなと感じる。

露木委員：最近は中学生も参加も目立ってきた。上手、下手よりも、みんなでやりましようというスタンスなので子供たちも楽しんでいるように見える。阿波踊りが「町の踊り」になってきたと感じる。

5 自治会活動をはじめとした地域コミュニティへの参画等を通じ、まちづくりに貢献します。

教育総務課長より概要説明

- ・子どもたちによる地域社会への貢献の一環として、町の防災訓練に、中学生全員が参加した。小学生以下も 400 名参加しており、小中学生の地域との関わりが増えてきている。
- ・防災訓練の他にも各自治会の夏祭りやあじさいまつりでのボランティアにも積極的に参加している様子。阿波踊りも各自治会単位で参加している。先ほども話題に挙げたが、運動会の種目として取り入れるなど、地域住民も巻き込んだイベントとなっている。

教育長：防災訓練への参加については、3年かけてようやく定着したという実感がある。初年度は手探りで、苦情も多く頂いたが、今年は苦情も無かった。どこの地区の子ども一生懸命取り組んでいる。

府川委員：牛島では子供たちの役割をあらかじめ決めていたので、進行はスムーズだった。中学生にも、授業の一環だという感覚が出てきて、こちらの指示もよく聞いてくれるので助かっている。

教育長：防災訓練関係では、吉田島高校との連携体制の構築が今後の課題である。今、吉田島高校は農業科が新設されるなど体制の転機であり教職員も多忙な中だが、北部地域の活性化や防災など、様々な面で今後連携していければと考えている。

町長：町としても北部地域活性化に力を入れていきたいと考えている。引き続き、協力をお願いしたい。

(2) 今後の教育施策について

○ 3歳児教育の導入について意見交換

町長：今やっている「のびのび・すくすく」の取り組みの良さを活かし、開成町らしさを取り入れた三歳児教育にしてきたい。

教育長：「のびのび・すくすく」の取り組みは今年で 15 年目を迎える。親子で一緒に過ごす日が週 1 日、子供だけで過ごす日が週 2 日ある。三歳児教育が始まると、親子一緒に過

ごす日が設けられなくなってしまう。保護者の中には寂しがる人もおり、そこは課題であると感じている。何か親子のプログラムでもあってもいいのかな、と考えている。

町長：せっかくの良い特色は、残した方がよいのではないか。

相馬委員：保護者のニーズはどういったところにあるのか。

教育長：子供を交えた中で保護者同士がコミュニケーションをとる場が欲しい、というニーズが大きい。子育て支援センターではそれはできる。子供を交え、「いつからハイハイできた？」のような会話を気軽にするようなイメージ。幼稚園になると子供を介した保護者同士の関わりが少なくなってしまう。その方策については、あと2年間かけて考える。ただし、幼稚園の施設としては、親子で過ごせる空間というのは無いので、やるとしてもどんぐり会館で、ということになる。

露木委員：今日たまたま地域の保育参観に行ったところ、どんぐり会館で親子ダンスをしていた。お母さんたちが非常にいきいきと、楽しそうにしているのが印象的だった。こういうことをしながら親を育てることも非常に大切だと感じた。教育課程との兼ね合い等難しさはあると思うが、丸1日ではなく数時間でも、こうした時間を設けられれば良いと思う。

教育長：最近の親を見ていると、栄養士や保健師、保育士など専門職からのアドバイスをもらいたいと考える人が多いと感じている。親同士の経験談からだけではなく、専門的知見から意見してもらうことが納得感に繋がっているのではないか。ただし、そうした体制を整えるには、予算の確保が課題となるため、今後相談させていただきたい。

(3) その他

村岡委員：幕別町への訪問は非常にいいことだと思うが、自己負担額が高額であり、可能であれば家庭の経済事情を考慮し、町の負担額を引き上げることも検討して欲しい。

教育長：経費としては一人あたり10万円弱かかっているところ、自己負担額は2万円に設定している。自己負担額をどの程度に設定するかということもそうだが、同一の児童が複数行くことを認めるかという問題もある。何人かは継続して派遣団のリーダーになってもらいたい思いもあるものの、機会の公平性の観点も考慮する必要がある。

以上